



令和6年度 果樹情報 第14号

(令和6年10月4日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (9月後半、果樹研究所)

平均気温は、第4半旬が24.2℃で平年より3.5℃高く、第5半旬が17.5℃で平年より1.5℃低く、第6半旬が21.8℃で平年より3.7℃高く経過しました。

この期間の降水量は90.5mmで平年比115%と平年並でした。日照時間は41.9時間で平年比60%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (9月30日現在、果樹研究所)

9月30日時点の土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで2.2、深さ40cmで2.1、深さ60cmで2.2となっており、適湿状態です (図1)。

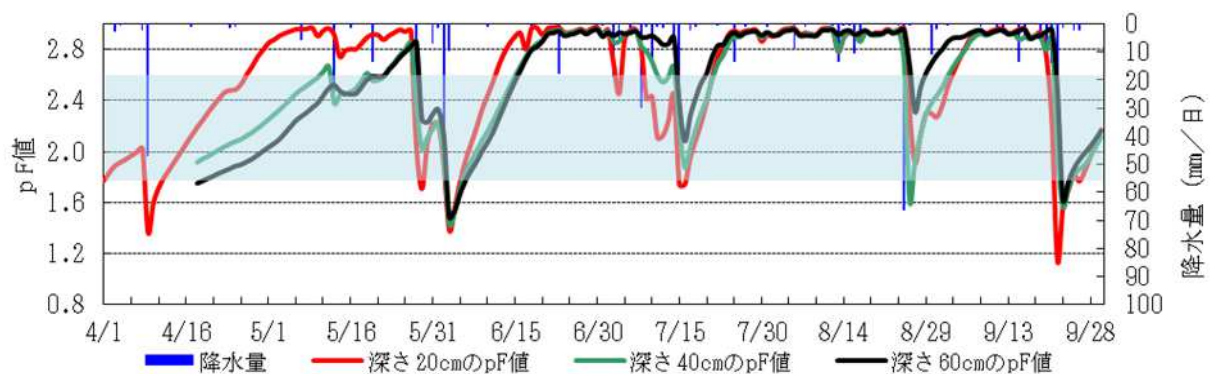


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6)

3 発育状況 (10月1日現在、果樹研究所)

(1) なし

ア 収穫状況

「あきづき」の収穫盛期は9月16日で平年より12日早く、昨年より5日早くなりました。

果実の大きさは482gで平年並、糖度は13.3° Brixで平年並でした (表1)。

「ラ・フランス」の収穫盛期は9月30日で平年より4日早く、昨年より3日遅くなりました。

果実の大きさは390gで平年より大きく、収穫時の糖度は14.2° Brixで平年より高くなりました。

表1 なしの収穫状況

品種	水	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重 (g)			糖度 (° Brix)		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸	水	8/13	8/24	8/14	8/18	8/29	8/20	8/22	9/ 4	8/24	403	382	451	13.0	12.5	12.5
豊	水	9/ 2	9/12	9/ 4	9/ 6	9/17	9/12	9/ 9	9/24	9/14	601	423	550	13.5	12.9	14.0
二十世紀		9/10	9/17	9/11	9/11	9/21	9/12	9/13	9/25	9/14	473	402	452	11.1	11.1	12.0
あきづき		9/11	9/25	9/14	9/16	9/28	9/21	9/20	10/3	9/25	482	462	512	13.3	13.0	14.2
ラ・フランス		9/30	10/4	9/27	9/30	10/4	9/27	9/30	10/7	9/27	390	294	383	14.2	12.9	13.3

注) 平年値は、1991~2020年の平均。

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が 81.1 mm（平年比 101%）、横径が 87.1 mm（平年比 100%）と平年並の状況です。

満開後日数で比較すると、平年並となっています。

イ 成熟状況

「ふじ」の満開後 158 日（9 月 27 日）における成熟調査の結果は、果実硬度が 12.9 ポンドと平年より低く、糖度は 12.5° Brix で平年並、リンゴ酸含量は 0.46mg/100ml で平年より高く、デンプン指数が 2.9 と平年より低くなっています（図 2、3）。果皮中クロロフィル含量が平年よりやや低く、果皮中アントシアニン含量が平年よりかなり低い状況です（図 4、5）。

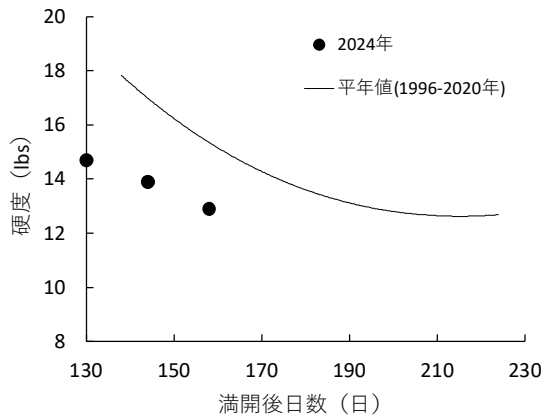


図 2 「ふじ」の果実硬度の推移

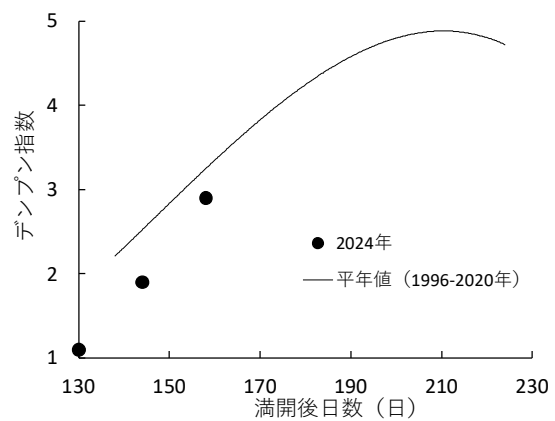


図 3 「ふじ」のデンプン指数の推移

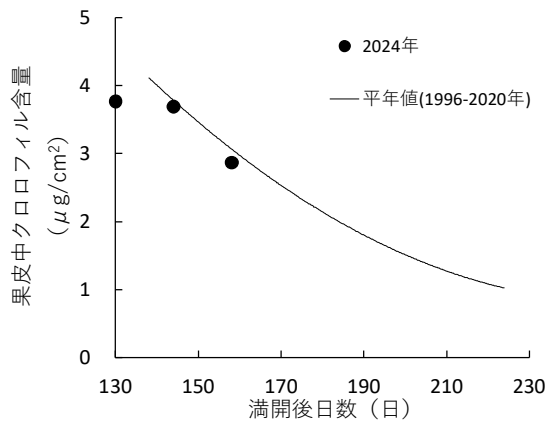


図 4 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

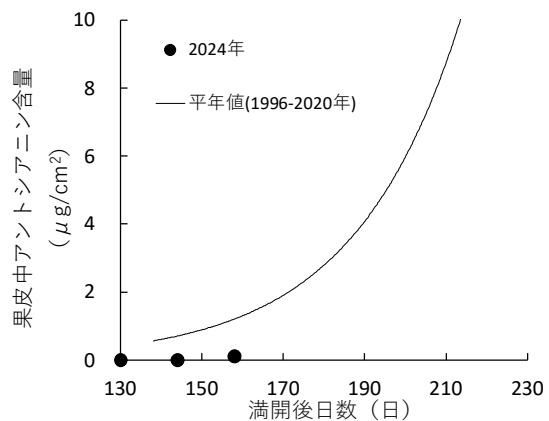


図 5 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

ウ 「ふじ」の裂果発生状況

満開後 158 日（9 月 27 日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は 0%、内部裂果発生率は 3.3%といずれも過去 3 年間と比較して少ない傾向でした（表 2）。

表 2 りんご「ふじ」の裂果発生状況（満開後 160 日ころ）

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2024	2023	2022	2021	2024	2023	2022	2021
ふじ/マルバ台	22	0	3.3	20.0	16.7	3.3	6.7	40.0	40.0

(4) ぶどう

ア 収穫状況

「シャインマスカット」の収穫始は 9 月 17 日で平年より 2 日遅く、昨年より 4 日遅くなりました（表 3）。

収穫始における果実品質（参考値）は、糖度が平年並で酒石酸含量は平年より高く、糖酸比が低い状況となっています（表 4）。

表3 ぶどうの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あづましずく	7/31	8/15	8/ 8	8/ 5	8/18	8/10	8/ 5	8/21	8/10
巨峰（無核栽培）	8/22	9/ 6	8/22	8/29	9/ 9	8/29	9/ 2	9/15	9/ 7
高尾	8/29	9/ 9	8/30	9/ 4	9/14	9/ 7	9/ 4	9/17	9/ 7
シャインマスカット	9/17	9/15	9/13	未	9/25	9/29	未	10/8	10/3

注) 平年値は「あづましずく」は2004～2020年、「巨峰（無核栽培）」は1998～2020年、「高尾」は1991～2020年、「シャインマスカット」は2009～2020年の平均
未は未確定

表4 ぶどうの果実品質

栽培方法	果皮色(カラーチャート値)			糖度(° Brix)			酒石酸(g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あづましずく	8.9	8.9	8.5	18.7	17.9	18.6	0.43	0.52	0.41	43.2	35.5	45.0
巨峰（無核栽培）	8.2	9.5	8.4	17.7	16.5	16.5	0.48	0.52	0.46	36.5	33.1	35.5
高尾	9.6	10.0	9.6	20.1	19.1	19.8	0.45	0.48	0.41	44.8	40.9	48.0
シャインマスカット	<u>2.9</u>	2.9	3.2	<u>17.9</u>	18.2	18.5	<u>0.34</u>	0.22	0.22	<u>52.1</u>	63.7	84.1

注) 平年値は「あづましずく」は2004～2020年、「巨峰（無核栽培）」は1998～2020年、「高尾」は1991～2020年、「シャインマスカット」は2009～2020年の平均
下線部は収穫始の果実品質(参考値)

4 栽培上の留意点

10月3日発表の1か月予報では、今後の平均気温は高い確率80%と予想されています。

気温の高い日が続き、果実の日焼けや果肉障害の発生が見られますので、収穫前の管理に留意しましょう。

(1) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

1回目の葉摘みは、果実に接している葉を数枚程度摘みましょう。10月中旬以降の2回目の葉摘みは、個々の果実に光が当たるように丁寧に実施しましょう。

玉まわしは、陽光面の着色が進んだ段階で実施し、反対面の着色向上を図ります。1回だけでは不十分なため、さらにもう1回実施しましょう。

反射シートの敷設は遅れないように実施し、枝の下垂が目立つ骨格枝等には枝吊りや支柱立てを行いましょう。

イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの抜け、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて適期収穫に努めましょう。

(2) ぶどう

ア 冬肥の施用

県施肥基準に従って実施しましょう。冬肥の施用は、落葉期の11～12月に行いますが、秋肥(9月)を施用していない場合は、早急に実施しましょう。「巨峰」成木における年間の施肥の目安(10a当たり成分量)は、窒素が6kg、リン酸が8kg、加里が8kgです。窒素の目安は、秋肥、冬肥、春肥でそれぞれ2kgとなっています。樹勢が強い場合は窒素の施用量を減量しましょう。

なお、堆肥等は冬肥時に併せて施用し、その成分量を考慮して冬肥の施用量を調整しましょう。

イ 間伐・縮伐

樹冠が拡大し、枝が混み合っている場合には、早めの間伐や縮伐を実施しましょう。間伐や縮伐は、まだ葉が残っている収穫終了直後に行うと、枝の混み具合が判断しやすくなります。間伐や縮伐を行うことにより、残った枝葉に良く光が当たるため、養分蓄積にも有効です。

5 病虫害防除上の留意点

直近の1か月予報では、今後の気温が高いと予想されていることから、害虫の発生が増加するおそれがあります。また、秋期の発生は、翌年の初期発生量に大きく影響を及ぼすことから、多発生条件下では、越冬密度を低下させるために収穫後であっても追加防除を実施しましょう。

(1) 病害

ア モモせん孔細菌病

本病は秋期に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、収穫が終了した園では降雨前の秋期防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

薬剤は4-12式ボルドー液、又はICボルドー412を30倍で使用するか、クレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、又はクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用して、2週間間隔で散布しましょう。ただし、コサイド3000及びムッシュボルドーDFは、高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。2回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。

イ ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出(図6)が多くなる頃(果樹研究所では10月上旬～11月上旬)となります(図7)。

(参考：令和4年度普及に移しうる成果 (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachm ent/566356.pdf>))。薬剤散布は、オーソサイド水和剤80を600倍で使用し、2週間間隔で2～3回散布(キャプタンの総使用回数に注意)し、最終散布は落葉率80%頃を目安に実施します。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

なお、9月30日時点の果樹研究所「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は8.2%で、例年よりやや少ない状況となっています。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。2回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。



図6 露出した芽りん片生組織(枠内)

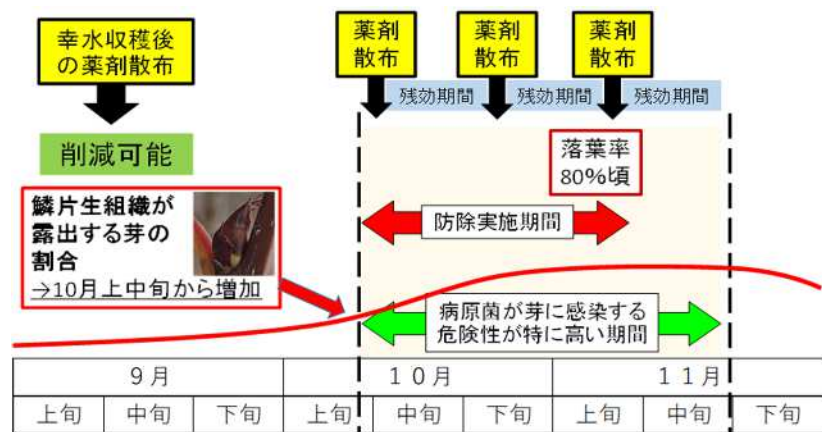


図7 なし及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

(2) 虫害

ア 果樹カメムシ類

病虫害防除所による9月中旬の発生調査では、9月に入ってから誘殺が急増した地点があるため、山沿いの園地では今後飛来が増えるおそれがあります。ほ場への飛来状況を確認し、多数の飛来が確認された場合は薬剤散布を実施してください(9月18日付けフェロモントラップデータ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/pheromonetrapp-2024.html>)。



図8 ツヤアオカメムシ(写真提供：果樹研究所)

なお、中通りではツヤアオカメムシの発生が確認されています(図8)。伊達地域の一部のリンゴ園地では、多数の飛来が確認されていることから、今後の発生に注意しましょう。

イ ハスモンヨトウ

病害虫防除所の野菜調査ほ場における9月中旬の発生調査では、誘殺が平年より多い状況です(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/654183.pdf>)。果樹では、昨年到现在の食害(りんご、ぶどう)が確認され、りんごでは果実被害も確認されています。

今後も発生が続くことが懸念されるので、園地をよく確認して早期発見に努めましょう。被害拡大を防止するためには、若齢幼虫期(ふ化後に分散する前)に捕殺することが有効です(図9、10)。



図9 ハスモンヨトウの終齢幼虫
(写真提供：病害虫防除所)



図10 ハスモンヨトウのふ化直後の若齢幼虫(中央は卵塊)葉はいちご
(写真提供：病害虫防除所)

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>